

こちら シマ桑情報発信局！

2

○そもそも『シマ桑』って、
どんな植物なの？

皆さん、シマ桑が生えているのを実際に見たことがありますか？

もちろん昔から身近にあった方はご存知だと思いますが、「見たことあるかも知れないけどよく分からない」「どんな植物かも知らない」という方も意外と多いのではないのでしょうか？

そこで今回はシマ桑の歴史・生態について、わたくし、農林課『シマ桑担当』4年目の清水（きよみず）が、簡単にではありますが、ご紹介したいと思います。

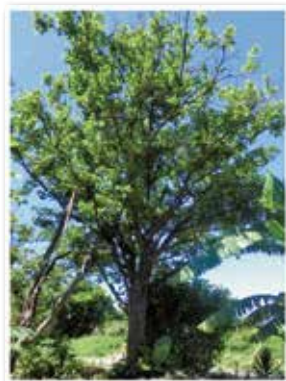


①歴史

シマ桑は、主に奄美諸島から台湾にかけて自生しています。

他の桑と同様、元々は蚕のエサとして栽培され、昔から沖永良部の養蚕（ようさん）業を支えてきました。残念ながら養蚕業は昭和40年代を境に衰退し、現在は行われておりませんが、童謡「あかとんぼ」で「山の畑の桑の実を〜♪」と歌われているように、沖永良部でも昔から桑の実などを食べる習慣はあったそうです。

ただし、ひと口に「桑」といっても様々な品種があり、実は現在シマ桑のように食用として使用される桑と養蚕で使う桑は品種が全く異なります。昨今、桑の葉の健康機能性への注目が高まる中で、知名町でも平成24年からシマ桑の栽培に取り組んでいます。



②桑の葉

シマ桑は高さ5m程の木で、葉は丸っこく肉厚なものが一般的です。ただし、沖永良部のシマ桑の中には葉に切れ込みの入った種類もあり、いくつかの系統・品種が存在していることが分かっています。

また、葉質が良く休眠せずに年中葉を付け、葉が硬くなるのが遅いという特徴もあります。

③自生地

主に沿岸部に自生しており、特に海を臨めるやや高台に多く分布し、島内全域で見ることができます。シマ桑は潮風や強烈な日差しにも強く、もし枯れてしまってもすぐに再発芽します。また、挿し木でも増やすことができます。



マル君

そろそろあたたかくなってきましたが、皆さんも海辺のお散歩がたらシマ桑を探してみませんか？



ベリーちゃん

以上のように、シマ桑は実は意外と身近で、とても生命力が強い植物だということが分かります。シマ桑には沖永良部の風土に育まれた自然の力が詰まっているんですね。

シマ桑に関することなら

問 農林課
電話(84)3164



私が
清水
です！